



明
 1090
 卷
 1-2



ありてのり序
 太極冠者あるく。は。剛にわらわす。母
 せの別のまていかに須早く
 ありのゆえみはむいれ。おのり
 信じて。書物も。持て。あはれ。さ
 らし見よ。有る。事。て。い。か。う。事。も
 ま。極。く。有。る。事。也。成。小。道。と
 かに。思。ふ。事。も。思。ふ。事。も。

主(ま)の忠(ちゆう)義(ぎ)親(ね)の孝(かう)のたのむ事(こと)

のりつらき母(はは)にのりの狂言(きやうげん)

堵庵(とあん)

淡々(たんたん)と流(なが)るる水(みづ)の如(ごと)く
静(しず)かき心(こころ)の如(ごと)く
清(せい)く澄(すみ)みたる水(みづ)の如(ごと)く
淡(たん)々と流(なが)るる水(みづ)の如(ごと)く
静(しず)かき心(こころ)の如(ごと)く
清(せい)く澄(すみ)みたる水(みづ)の如(ごと)く

有(あ)るに
上(うへ)

むしく。姑(こ)村(や)山(やま)れか。陰(かげ)お。さむりの庵(いかり)

とむまび。もしく。毎(ごと)く。講(こう)淡(たん)く。けり翁(おきな)あま。

いとよ。講(こう)淡(たん)す。で。小(こ)終(は)り。ま。ま。癖(ね)ぬ人(ひと)と。室(むろ)

知(し)れ。徳(とく)の。ま。も。幽(う)なる。月(つき)山(やま)の。湯(ゆ)ふ。か。さ。じ。き。て。

隠(い)暗(あん)さ。庭(にわ)の。木(き)れ。不(ふ)人(ひと)れ。病(びやう)眠(ね)れ。さ。は。な。り。

まの。あ。ま。歩(あ)り。ま。ま。て。ま。く。足(あし)さ。ハ。白(しろ)髪(かみ)れ。老(らう)人(じん)

な。ま。翁(おきな)同(どう)い。人(ひと)ふ。て。い。づ。く。ち。り。来(き)り。ま。ま。あ。ま。ま。

老人善翁。翁は高徒なり。びく。毎夜竊うけ
 前ふ来り。独りゆく。翁の曰。なご内ふを
 入給ひて。か。致す小病あり。翌日の夜も又
 来りぬ。か。なご席をまわけておすべし。
 老人如首。顔もとげど。のちも翌日は疾ハ
 来りぬ。老人が命ハ今宵のぎやなりといふ。
 翁驚き。而謂ぬ何と問ふ。老人愁あり。色
 又く我ハ人おてハ。ゆけ。山のかさるふ

行て。數百年と経る。我狐なり。今宵蹄と
 蹴りまぐる。既小蹄と蹴りまわれ。たとひは
 疾ハ速くとも。のちの疾ハ是也蹄小からん。公翁
 同蹄と知。どして蹄小か。疾ハ是也。もわす。
 蹄と知り。蹄小か。疾ハ是也。もわす。
 老人曰。そこが畜生の淺猿さ。蹄と知り。蹄
 蹄小。掛て。命と失ふ。不便とおぼし。なり。し
 也。啼く。を。と隠し。る。



賣ト翁は事と傳人使。諸客小向い。け先
と委し〜か。誰しも人の過のたさるる能
蹄と知りて蹄小掛於ハ過ともいふるこ
蹄と知りて蹄小可於ハ過なるも小わどや
諸君子如行思百ど
諸客声を揃へて曰。流石畜生の浅まし〜さ。人
其なる所あり。誠小人ハ善物の靈。我ふ〜。畜
生小生〜りも如せん。あくも人小ハ生〜と
〜とみかく肩袈裟を忍て。露のぐりと振て曰。
ひと人と人をおまり自惚ハな〜ぬ。蛾眉ハ性と

伐芥と知りて。色といふ蹄小可也。家
亡也蹄と知りて。奈也。利秋ハ福を招く蹄
と知りて。蹄小掛いと若び人わ。外
の氣。盤房〜此。釣針小可於ハ魚を〜ハ。皆
是也と書人として蹄小掛於。そき〜人ハ悪
なりと此小可い。そ人ハの過り蹄ハ。おなり
〜と〜もわす。ゆるといふ蹄小可つて
今日とむあ〜う。そ人もあり。毒と知り
蹄小掛いて。酔おひ〜もわ。あなる
蹄〜。美て坊ハ日と〜や〜。就中

貴も後も。ひかも却も。唯ひて安さハ色の
蹄は蹄小掛也。國家を亡し。方と失なり。一
むしれり。ハ和漢の書小教多る。こまハ
ま川。並。云。羽。目。前。見。聞。ら。所。家。の。人。也。蹄。を
知り。は。蹄。小。可。也。家。を。失。ひ。方。と。一。む。し。
名。跡。の。絶。ら。類。し。指。を。折。小。い。と。ぬ。なり。歴。さ
と。一。と。家。の。さ。は。蹄。小。可。け。り。と。持。留。し。
終。不。令。の。耗。と。水。の。耗。と。病。根。を。て。若。死。せ。り
ま。し。人。も。わ。り。は。蹄。小。可。け。り。と。一。む。し。か。り
さ。り。由。人。内。後。の。者。ま。を。放。埒。小。なり。いろ。く。の

蹄小可也。教代の家と活却して。親兄弟小形儀
を掛。妻子小愛目。見せり。族。霜。毎。く。義。於。扱。ま。し。
息子や。子代。もの。は。色。の。蹄。小。可。也。を。親。小。動。氣
と。受。る。を。欠。落。し。り。果。ハ。合。犯。人。と。あり。の。で
ま。死。と。一。む。し。も。わ。り。親。の。遺。体。小。疝。と。け。け。わ。り
ま。ぬ。死。と。一。て。親。一。類。の。親。と。穢。し。と。ら。ふ。初。を
さ。う。せ。り。も。わ。り。免。小。角。恐。る。處。さ。ハ。色。の。蹄。なり。
客。一。人。出。て。曰。某。今。朝。去。名。さ。り。人。相。見。小。出。會。じ。
彼。相。者。予。を。相。して。婦。人。の。美。雅。小。わ。り。の。處。さ
相。わ。り。慎。む。人。と。言。ひ。さ。我。等。て。婦。人。の。雅。小

か新屋さ夢之なり。そ〜お知り方女わらば。
慎〜とせ先。中よりなると婦人の災難あや
不足〜ぞ。是おも相者といふべきは考あつたし。
翁の曰く云ふ既小災難形を〜と。情む慮〜
おそく〜昔久美の仙人れ通と失ひあらはせも。
とこそ小白ひ脛ハをひ。通うと失ひ〜なりあどや。
その流あ甘ハ指ぬう。あ〜いものドやと。祝さ白
け〜えさでハたひ。百夜通ひ〜。深草れ少
も。け〜先ハあ〜い〜と〜と〜。後ハ患の奴
と成。そい〜えさ〜前と情〜。そい〜と〜聞さる

前と〜と〜人〜。先年或る名の相者なり人。
小相小の〜〜り〜り〜。相者元日未明〜。
小相〜社小信人〜と〜。千中通りと〜り〜。於
む〜り〜邊〜く〜人あり。提灯小す〜
〜。貧窮患難。死相形形〜。い〜成〜
〜と〜同るなく。別〜き〜。は人の相何やなく
公小掛〜。〜〜。〜のあり〜やせんと。又千中
通りを下向も。東〜既小的の妻。室の掌色
も長閑なり人。品めて。向〜り〜。温
潤めて君子の相あり。〜〜。〜。彼未

り〜り〜

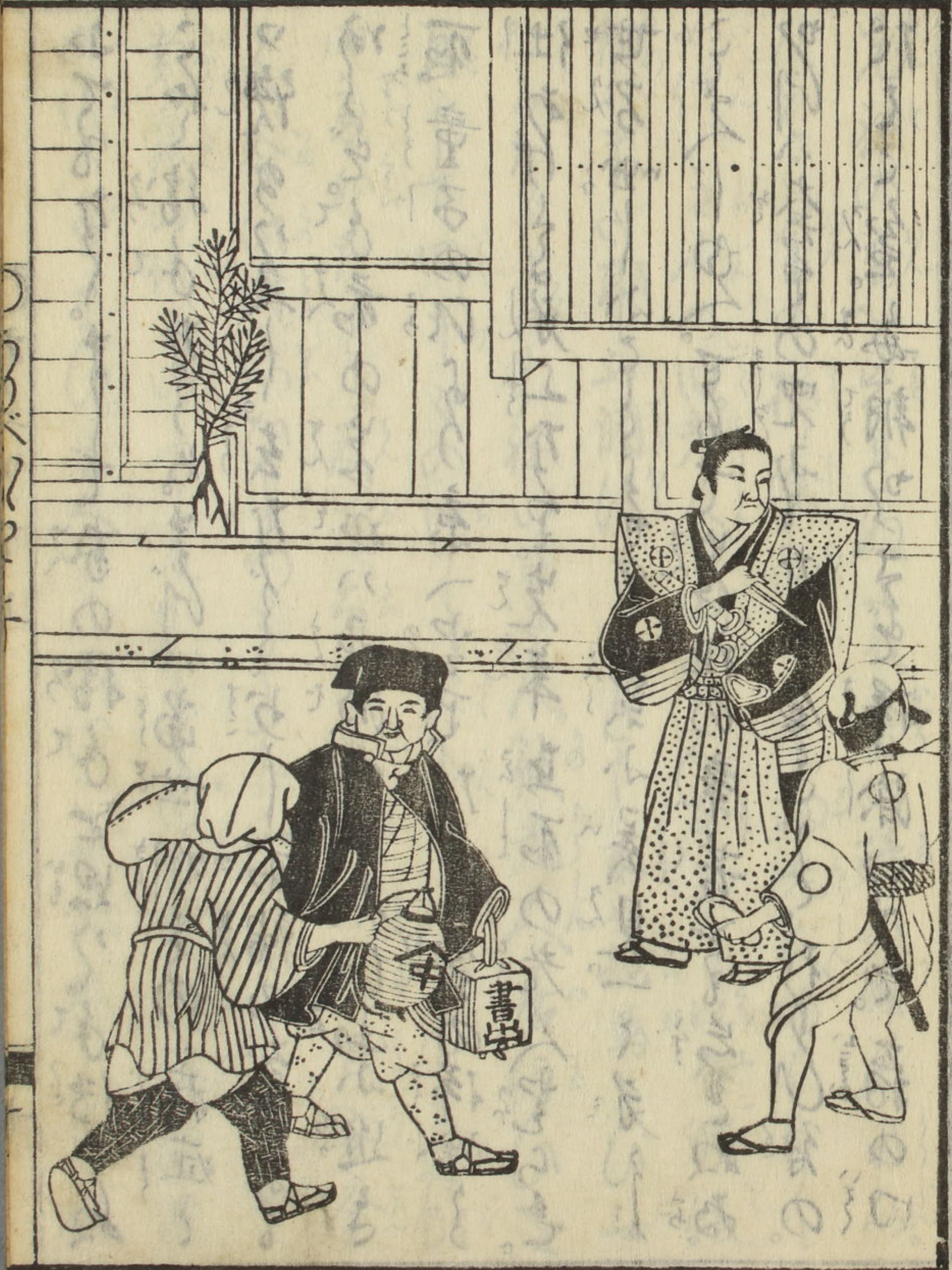
六

小邊一死相の人なり。須臾小相のかりり。不
不不儀さふ。いふ人かてま。海をぞ。嚮小未
明小邊一とさ。困窮の相ありて。死相す。ふ
死相より。今ま。君の相とる。ふ。福徳充
長壽ま。と。浪をたり。是我未熟の見過り
不なる。但し君神術あり。如斯。復せり
しり。不靈と晴さをせ。人とり。彼人。と。お
嗚呼。妙なり。か。其肺肝を。る。ご。し
我中何某といふ朋友あり。各。小。憚り
と。ふ。さ。ぬ。あり。彼舊友。七年。已。前。火。災。あり

會。貧窮小。お。ま。と。る。ふ。お。の。い。ど。我。徒。を
分て。旅。り。と。去。秋。つ。ま。ま。水。難。小。あ。い。困。窮。小
お。ま。ど。も。彼。朋友。の。信。な。さ。れ。ふ。わ。ら。ど。予。の。災
難。を。幸。小。お。の。ま。ご。利。歎。と。ほ。い。候。小。利
と。科。小。た。と。さん。と。傷。れ。彼。是。の。恨。骨。隨。小
透。り。か。の。朋友。と。刺。殺。し。我。も。も。に。死。な。ん。と
九。寸。八。分。と。懐。小。い。か。の。家。さ。し。て。は。途。中。ふ。い
肉。小。わ。さ。ハ。色。外。小。影。さ。て。困。窮。の。相。見。一。ぎ。ん
や。死。相。ま。と。わ。り。り。さ。ぎ。ん。や。討。も。さ。と。かく。こ。お。て
未。明。小。彼。何。某。れ。家。小。至。り。あ。の。い。入。く。お。奴。小。

何某ハちや礼服少て。老母小屠蘇と進給体。
只心と刺と逆より一。老母の面さ。死母
小彷彿。と。そくと。叙を。より。れ。と。さ。さ。を
あひ。母の教訓。目前。きく。心。比。て。怒。身
より。行。流。き。い。ろ。の。端。忽。さ。え。け。て。老。て。知。る
我。身。の。非。今。家。か。ま。を。殺。害。せ。ば。老。母。悲。し。小
場。ど。して。命。も。ま。ま。と。老。か。ん。假。令。命。命。も。
き。き。有。く。喜。ん。ま。子。小。恨。あ。り。も。老。母。い
何。の。い。ま。恨。な。さ。人。と。害。せ。ん。ハ。大。ひ。かり
不。仁。なり。是。る。ゆ。と。知。り。て。因。窮。せ。ハ

我。過。一。朝。の。い。か。り。小。を。身。と。可。と。と。又。母。れ
遠。難。と。毀。ひ。や。ぐ。り。又。母。の。名。ま。で。汗。さん。身。不
孝。こ。ま。より。大。なり。その。ハ。わ。と。と。過。を。改。て
悔。ア。い。内。の。誠。外。小。い。と。と。君。子。の。相。い
又。く。を。恐。る。と。と。借。り。ぬ。と。か。り。と。今
を。え。小。い。通。り。内。小。敬。心。な。け。ま。バ。こ。と。を。小
其。難。難。と。敬。と。怠。小。務。その。ハ。吉。なり。怠。り。敬
小。務。その。ハ。凶。なり。人。相。小。福。徳。の。い。り。と。之
を。と。も。情。と。か。く。して。老。を。ま。ま。と。喜。な。る。ハ
家。の。亡。び。ま。り。と。長。壽。此。相。あ。り。り。あ。る



Vertical text on the right edge of the page, likely a page number or chapter indicator.

おてもなく。まして家の務子と思ひて手傳はぬ
こを務子なすめ。まげの當世利きの病症と
口快あり久し。去たぐる。げー而諸のおさか
何とぞも前の先祖の母波の由大い山小遊さ
不。童子の以より系一宅也。たゞこ室の掃除
仕わけする。弟上なる。先年在取の老人也。是
世も咄しふこととせして。藥小異見一くあり
こえー也。せめて先祖の辛苦とも忘るぬ。
川のハ奈重の児もなる。屋さし。たりのいけの
たここ。毎朝かきと掃除し。孫の曰

先祖の恩と忘るぬ。若者の蹄小掛ぬ用ん。
たここ室の掃除面白し。お老人のえさ
如何。之人の曰。老人の回舎人。中より不調法
我ふまゝ。耳不調法。そまきし。而ハ挂馬とび。其
拍子たぐはま。孫いささん。彼老人。居位いと
直して曰。下このは。山。少小。中も。追
内。急外たぐ。天下を。五穀成就。民安全
とハ。今。は。何。ひ。と。う。て。お。是。る。世。の中。
堯舜の代といふも。かかど。目。出。度。所。韓。濫。成
代。ハ。ま。ま。い。す。く。の。け。ご。せ。や。我。お。至。れ

まて。親子夫婦一雨小病く。なんの言をひ
のきれ字もなく。安楽世奥小善の事。是皆
泰平の所産なり。ぞや。余で廣たなる恩澤ハ
いとく。たねふらぬよのトヤ。嗚呼を平ある
人公叔又いごせまはかりまひ。何玉の在而と
同し。夏の次昇はげば。百姓の辛若辛若。
いやとや。京の荒れとちのとるせし。親も子
も。夫も婦も。嫁も娘も。最重の工うらなく。余
は。根かぶる。わし桶の。新嘗車の。拈擗れ。
す。人の。ま。思ふ。わ。て。水の。世。作。わ。

おてもゆんすまハ。お角。こま。ま。で。幸。若。と。
稲も綿も。粟も。秬も。大豆も。小豆も。わ。て
のける。ま。二。三日。旱。は。げ。ば。た。と。人。い。っ。ほ。ど
も。ひ。て。も。言。子。川。倉。さ。水。も。も。人。の。力。も
弱。れ。と。ま。神。く。諸。寺。に。祈。念。祈。禱。雲。の。奇
特。と。て。俄。小。雲。に。ま。る。が。出。来。大。雨。頻。小。雨。
お。せ。ば。も。挽。ひ。勢。ひ。なく。蘇。ら。ど。く。ふ。て。今
ま。で。五。ほ。る。水。の。喧。嘩。も。さ。め。り。と。か。が。ま。て
仕。舞。所。神。酒。と。れ。の。由。湯。立。の。由。れ。ま。い。り。の
由。産。の。と。村。に。雨。後。ひ。け。や。う。か。旱。年。を。

つるべりり

十一

又年目十年目。度ぐハカふるトヤ常の
とハ付小町。雨も福よ降ぬ。辛苦も数
少。五穀も出ま。け年ハ移ん。暁が庭さ苦なり。ま
ども。是ぐかの大病人の本復して。本復の程ハ
ハすもども。病ぬ程ハ〜〜〜程ハする人なごごご
〜。雲〜して雨の降をハ〜〜〜も。福よ
やど〜降五とハ。ハ程マをわ〜〜〜。この
門治せれ〜〜〜。さ〜〜〜。〜
も。礼世の悲〜〜〜。〜〜〜。〜
天恩國恩ハ。廣々なる事なる事。報ト〜ハ

かけもども。奏て天の冥加とわ〜。ハは及と
か〜。心也小家業とほ〜。中一ハ老成
情〜。困窮なる人わ〜。はお徳の妙とせ〜。よ
そえ〜。先世の〜。舌ハ。唾壺の掃除〜。絶えて。
し〜。なり家藏。掛を〜。備〜。内福ハ
〜。〜。一生業好〜。着〜。小難癖
云〜。大考とほ〜。〜。〜。人
おハお徳の。施〜。〜。通〜。諸ハ。親ハ
若〜。子ハ。歩と〜。〜。子ハ。念〜。〜。
い〜。世〜。小〜。〜。〜。〜。この先世も

先祖おわご人ハなぐ。至夜三十日麻布人との
又日喰ど小御され肩小持のき人乃なく。此も
度々として祭常買。目とせめて持する。先祖れ
は薩ハ思えすして。け家屋敷家室まで。こが
おのやうおにさし。書の子とけし先下女小者と
おのよまご。皆我力のやうおふゆ。是がわりの
源なり。奈ハのぎりのあひそのな色ハ奈ハを合れ
源とあり。たごりのお北とささハ。先祖の辛苦と
あひやきと。灰吹コック叩ての教訓あり
お孫の口。それお人の掃除なる。一通りハけしとる

去たき。煙草盆とハちひさひく。掃除の湯
不が透りてあ。実の掃除せんとならば。まじ
私ハ私欲とけし。舊深の垢を洗ひ。腹の
内れ掃除して天姓固有れ明徳と磨出す。し
日日小掃除。又日小掃除して。我ハんと実
知せば。先祖の公と。親の公と。天北の公と。お
おハるし。そおハるし。と道といふ。道ハ須臾も
離えし。と。きし。道ハ離れし。と。親先祖ハ
いふ。及ぶと。世果れ公小離れ。と。終ハおの
の場。おもえ。おを補。おもえ。おの

昨日小掃除しまた昨日小掃除すべし
あはれとて曰く川跡小掛ももたなくぢやなくと
かゝれよのハ奈の跡なり。は跡小掛に。はあど
亡す小至れりも。けし矢とほくしまたんがあり。
歌ふれ川を源を尋ねハ藤の葉秋の下葉
ひと下はれ奈と思ふと。お小至てハ大はし
なり。そ水が溢てハあも屋敷もたなくして仕舞
免角老ハ別よこのふてわしのみとて仲ひ
ハたぬお常小一玉百文の煙草とのをあき
さしてよきともおんご。またあしともおんご

して是めて是中し。或時不圖百文十文の煙
草と調へ是と味ふ小を音ひは中ぶらり。また
格別の風味あり。故小枝ハゆだけなりとあし
是も僅に又日別も。さしてよきともおんご。
わしとも思ふ。唯ハの百文の煙草小同し。
故小費なりとて又百文の煙草小戻。お是を
喫する小その嗅えは中わる。中く一服もはし
がく。是れなく百文十文の場小止まる。ぬその
のらま。或百文の煙草なるをて人の場
事わり。ば煙草と味ふ小。そ苦味は口中障り。

〇つりく止

一

まじく搦研の風味なるを。微小残ハ残だけ
かりと一糸一が是もまじくは入り別てハ。あま
雙々どわくもななく。唯百八十八の煙草のじ
こまじくまじく。の百八十八を味ひんふ。こま
に申あると。中く一服もそくが。このまじ
奈れ別やまじく。つとめて。本の百八
の産一尾を長くぬ。是等ハ。進退ハ。細なる。あ
まじく。障の糸。秋のト。あけ。先々。終の
あまじく。下す人。不至てハ。舟なきてハ。波も。幼少
のまじく。教も。して。愚癡の附。り。子ハ。末。不至く。

親のまじく。余。親。その。なる。是。お。も。け。り。あ。り
た。まじく。親。の。過。なり。古。の。人。は。い。ま。ま。人。の
父。の。道。と。知。り。て。ハ。子。の。ま。じ。く。と。知。り。と
なり。今。の。人。ハ。い。ま。ま。人。の。子。の。道。と。知。り。と
して。子。の。ま。じ。く。と。知。り。と。去。の。識。が。笑。ひ。り
なり。い。ま。ま。父。母。小。事。の。道。も。知。り。と。書。あ。子。と。知。り
は。ま。じ。く。ぬ。ま。の。ま。じ。く。や。必。書。子。と。知。り。と。蹄。不。掛。て。孝。の
お。ま。じ。く。人。ぬ。用。心。な。き。是。下。達。ハ。身。上。も。あ。り。り。く。
肉。徒。の。流。も。教。多。わ。れ。ば。自。別。子。是。の。孝。以。り
勸。ず。ま。も。不。自。由。可。れ。を。ま。じ。く。唯。親。の

嫌ひなるとりよせむ親水の好む小僧の事
又母の好むひハ。面くの本公小僧の事
よく成存知。知りは。時小僧の事
まゝ一人出く曰。は。別國中の舊友とす。是言
山の岬一の月を客人の物びるふ去秋草花
誘引せし。此程五里余りあり。一
あり。を降。於その山。路あり。由。こ。倒。一人小僧
樵夫と見。て。腰小僧とす。一。を。か。ら。小僧も
又也。秋の日の言。進。く。を。せ。げ。ども。ア。タ。カ。小僧ひ。で。
と。一。持。病。あ。て。も。お。こ。り。し。人。り。獲。痛。な。と。せ。む。

持合のく。と。を。系。る。と。ぐ。父。と。耳。際。小。僧。と。為。
け。と。バ。形。と。と。一。礼。一。て。云。々。や。る。中。う。
持病も。い。つ。ど。腹。も。痛。ま。は。念。ぶ。と。猿。小。僧。と。す。
餓。小。僧。と。て。必。け。と。け。云。と。聞。て。回。付。皆。力。以。
得。幸。毎。尚。小。僧。と。す。切。飯。早。ど。一。或。ハ。黄。深。
た。と。こ。り。集。小。盆。小。成。と。す。興。け。と。バ。押。戴。く。
さ。も。旨。さ。と。味。小。色。色。申。く。切。食。ぐ。ひ。お。て。ハ。
ど。こ。の。僧。も。是。ま。ど。く。ア。タ。カ。小。僧。ハ。何。す。
一。て。ま。か。た。り。合。小。僧。一。と。す。余。と。す。と。小。僧。
小包と。戴。て。懐。中。す。我。お。と。心。と。知。ら。れ。バ。

つりべり... 十一

不審なるほど。終つた小笠原を飯皆喫う
とも争う能く凌ぐ不足人。志る不才余也
事ここぞの境。いふ成中どと同けは。吾て曰
我家なるを至く貪しく。かれば貧食ハ端
あも争ふごと。あ暇小涙と念。貪しくさ男の
悲しさ。いとこの母と持たざる。かやうなる食
物ハ進る力お及ぶ。知しきる母なる母一の
去来不致しと。そこく小れりて子早
行と負。とごとく不列道。同体皆感々。
鬼の目も涙とや。目と擦る涙。くもて

縁近生れ人不出念。をいふ子どもか。りたるに年
恰合。かやうくの人たる人。是を我。り田村の
茂八とて。かく是か。さ孝子たる。け仁なるより
小百姓。おて。お甚貪し。けきども。人のお。りお
ちる人あり。田村も隣村。れも使なる人。さ
孝行。ありと感。田比山。畑敷多。附添。娘と
書。さ。と。媒と。お。く。云。い。さ。小。固。辞。て。兼
以。て。友。を。さ。と。い。て。肉。を。と。聞。小。孝。子。の。曰
我家。か。より。貪。し。く。さ。ハ。貪。し。く。さ。ハ。常。あり。
今。を。使。なる。人の。娘。と。嫁。ふ。と。ら。の。ひ。な。は。

母の孝がひ多う人。是をさかすまゝおんけらると
 言へりや。翁の曰はよのがらふふらめて見
 まばもえ進の先ふてハ毎日二の儀附と云及
 け。同ハ分です人さとも。ミヤと飯吾の孝
 切ハ掛合ま。たしひまに掛合さとも。
 家藏材室諸道具を皆親のむらとせらる
 ずや。親のそのふくを親とあらふ子何れど
 のふと孝と云ん。まごく家材むらであらん。
 礼伴友層皆父母の儀アなうとや。父母の
 儀りとすいてを父母小はふ子いあゆとや

孝と云ふ人。但云く
 まご一人出て曰。老南孝子ハ貧家ハ多う。富家ハ
 稀なる。け俊如何。翁曰。國家礼て忠信あり。家
 貧して孝子然る。あつらつと。あつらつと。ち
 ぐひ而已やく。身とたて通と行ひ。父母の名とけら
 りす。富家ハ多う。孝ハ人の天性なれば。
 けらり来て得親おわら。何ぞ貧富不興う人
 又一人おて曰。拙者は甚大和由りといさす。と云。
 七十よりれ老母と負。両玉と順礼する孝子ハ
 會し。同伴皆感涙をなす。手掛を紙或ハ

路月菓子あんど。家もくと。後して。わりがと
 ち。ぬは。回付。みか。買。あて。なる。孝。ん。な。れ
 事。ハ。我。ホ。孝。く。心。入。一。人。く。なり。も。孝。公。傳
 也。人の孝。け。なり。と。見て。感。れ。り。も。ま。ま。保。し。と。
 其。の。感。涙。流。せ。り。が。折。良。遠。西。の。通。者。と。ん。て。
 三十。余。の。男。通。り。か。り。孝。子。小。對。し。國。而。と。り
 同。し。矢。志。と。出。し。て。我。必。不。と。半。て。後。し。か。あ。り。ず
 た。つ。子。あ。く。と。と。契。約。し。通。申。解。の。包。め。小。なる
 屋。さ。り。も。ど。も。妻。し。く。教。へ。ぬ。自。身。れ。細。と。帯。と。解。
 孝。子。の。脊。中。れ。帯。小。孫。付。院。の。と。く。あ。る。一。と。き。

老。母。の。足。お。行。ふ。臨。せ。あ。り。泣。け。バ。血。が。下。り。か。あ。り
 ぞ。腫。の。あ。り。もの。なり。と。驚。小。女。抱。し。ぬ。く。妻。後。ハ
 長。し。い。我。ホ。も。去。年。老。又。と。負。て。西。面。と。包。り。し。が
 態。丹。と。一。ヶ。布。抄。残。し。来。妻。ハ。ま。ま。態。丹。信。ぞ。と。
 親。子。楽。し。と。書。せ。し。小。を。常。の。風。お。ま。ま。と。ど。も。秋
 ち。は。る。の。ひ。し。な。り。と。夫。也。小。け。び。く。位。牌。を
 負。て。態。丹。へ。出。伏。い。と。せ。り。なり。去。年。れ。妻。の。た
 申。ハ。樂。く。あ。り。て。力。も。あ。り。が。け。旅。ハ。楽。と。あ。り。て
 力。も。抜。さ。り。ぬ。く。も。え。ハ。長。し。き。人。なり。と。見。ふ
 又。た。り。し。長。し。ぬ。け。人。ハ。唯。人。の。親。の。命。成

と云て人の子れ孝けたるをば。そのも感んらり
仰り。我こそと思ふも。我おと弱味嗜ハ
人の力れ強さと云てハ。刃の及ぶるをさめての
更小感心もさども。力の強さ人の目やハ。強
うぬるやると。感んせざるごとく。おてば人至孝
あるが。人の孝けたるをさめても。そのも強
かぬと云くも。同伴の感心も。さく弱味嗜の
伸るやうん。孫田。汝の同伴。作ともさる
うらうら。時小孝を深くと。さく同伴のうら
誰あてもあき。親が頼れたるごとく。思はバ。

五牧府之牧がこれ通し。早速は彼先
さるべし。去たるは孝けハ。早速は彼先
はよい孝けあり。さく早上り。その毎
不ゆふ感心も。早速は彼先
は不念念がゆらぬ。人も早上り。その毎
夫婦睦し。さく早上り。その毎
さく早上り。その毎
出来てハ。初めさく早上り。その毎
はさく早上り。その毎
さく早上り。その毎

のくべし

下

孝けせよといふは、おのれを教へたる。若國おても孝
けすまじは、おのれに孝け。論語小。吾父に與
ざれば、父のさるごとくといふ。是とさるるも。府
うりも。自らせざるは、せざるごとく。或人大病と
なりて、病氣全快あさしめ、あひなは、天小
けり。幸中、小禱あて、お礼あつて、いささんと、神
佛小頼をまゝく。そ病を復して、代業とまゝ
まゝ。神意佛意。お何のせん
あり一人おて曰。某隣人。天魔をこれ言云。信とて
悟りて、おのれのおあり。そある人。壽とまゝと、
寐。

起しむ時、起。喰。い。と。さ。喰。飲。い。時。吾。福。も。
悦。り。ぞ。福。も。愛。一。と。せ。ど。中。と。一。と。ま。ど。死。と
悪。し。げ。得。失。存。亡。と。約。瓶。小。た。と。苦。楽。盛。衰。と
確。なる。と。て。貧。富。貴。賤。を。一。眼。小。見。て。倫。と
ち。く。礼。も。あ。く。人。喪。も。さ。も。業。と。せ。ば。人。毀。も。瓦
辱。と。せ。ど。け。人。窮。愛。の。一。子。あり。て。男。子。あり。が。
十。歳。の。妻。若。病。あ。て。お。果。ぬ。日。比。ハ。悟。り。ま。し。け
ら。し。も。亦。し。り。か。れ。あ。ざ。ん。と。た。ま。ひ。の。介
愛。は。色。なり。我。同。て。曰。窮。愛。の。一。子。小。誰。も。
憂。り。さ。る。の。死。く。ざ。り。ハ。何。實。小。秋。り。ん。た。ら。さ。り。



おのゝかへり

廿二

天魔屋笑て曰我十年已前小子なり。そ
 何の憂もかろし。今また子なり。昔
 十年已前のおと。又何の憂れられん
 や。さしをりし顔色。是亦ハ蹄を抜
 けり人の。翁の曰。是亦ハ蹄と抜きて。極楽の先
 裏へり一人なり。ささるハ及バざりて
 人の形らみそ。人の情なり。人として人の情を
 さハ何とていて人と云りん。むし子を先たて
 人のよける奇として。其のそあやむのすさ
 めこころに人ともゆる神れ。是亦ハ人の情

味より予が隣も。是れを知りて。おん
 自惚る人。其のけ敷。まじ世る不多し。是亦ハ
 人の及バざり人。翁と高い声ハたすぬ。あむり
 除さ中ではある
 まこと一人欠びに。く出て曰。翁毎く。志ろ
 しく。教訓先うして。書散せり。そのとこ
 皆議えり。なる。あむり。あむり。あむり。あむり
 欠びと。あむり。あむり。あむり。あむり。あむり
 欠びと。あむり。あむり。あむり。あむり。あむり

